



女に

谷川俊太郎

詩集

佐野洋子

絵

女
に
目
次

腕	血	なめる	かくれんぼ	素足	ふたり	夜	名	心臓	こぶし	誕生	未生
28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	8	6

電話	ともに	唇	指先	迷子	川	手紙	会う	日々また	日々	初めての	飯
52	50	48	46	44	42	40	38	36	34	32	30

後生	死	夢	恍惚	笑う	墓	未来	蛇	旅	雑踏	ここ	⋮
76	74	72	70	68	66	64	62	60	58	56	54

女に

谷川俊太郎詩集

未生

あなたがまだこの世にいなかったところ

私もまだこの世にいなかったけれど

私たちはいっしょに嗅いだ

曇り空を稲妻が走ったときの空気の匂いを

そして知ったのだ

いつか突然私たちの出会う日がくると

この世の何の変哲もない街角で



誕生

そのときも風が木々を渡ってきた

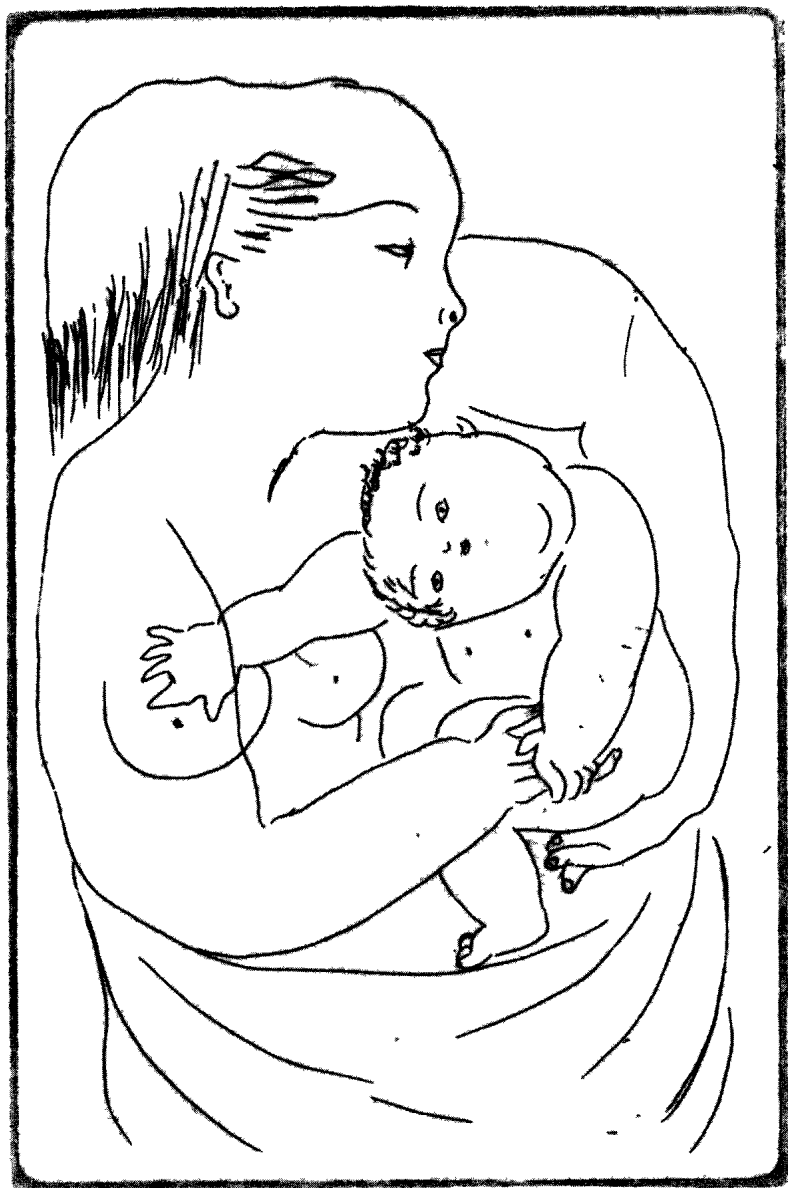
高利貸は指に唾つけて紙幣を数えていた

動物園でセイウチが吠えていた

そのときも世界は得体の知れぬものだった

あなたが暗くなまぐさい産道を

よじれながら光のほうへ進んできたとき



こぶし

なんだったの？

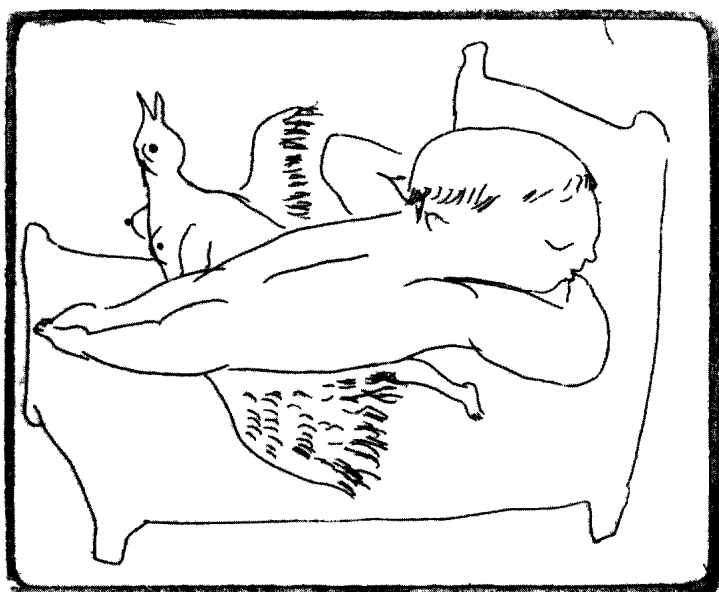
ちいさなちいさなこぶしの中に

固く握りしめていたものは

決してなくすまいとしていたものは

それをあなたは投げつける

まっすぐ私に向かって いまも



心臓

それは小さなポンプにすぎないのだが

未来へと絶え間なく時を刻み始めた

それはワルツでもポレロでもなかったが

一拍ごとに私の喜びへと近づいてくる



名

誰も名づけることは出来ない

あなたの名はあなた

この世のすべてがほとぼしり渦巻いて

あなたのやわらかいからだにそそぎこむ

幼い私の涙も溶け始めた氷河も

